



新年のご挨拶

◆ 代表取締役社長 柴木 秀之

令和5年の年頭にあたり、昨年の皆様からのご厚情に感謝申し上げますとともに、本年も変わらぬご指導とご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。コロナ禍となり約3年が経過します。その間、感染拡大は8波を数え、依然として緊張感を持った事業継続が求められています。そのような状況においても、社員一丸となり、感染症対策を行いつつ円滑な事業運営を推進しています。ウィズコロナを前提に、強靱な経営の確立を目指します。



令和5年度は、エコ第8次中期経営計画（令和7年度までの3年間）が始動します。

「持続可能な経営基盤の確立」を経営目標とし、経営理念である企業倫理と持続可能な経営環境を基礎に、「人財と技術による共通価値の創造（コンサルタント業務による社会貢献）」のため、その具体的な成果として、建設コンサルタントの視点からSDGsの目標達成を目指します。

第8次中期経営計画は、①受注と利益の確保による事業規模の拡大、②組織の拡大を目指した人財の確保と育成、③技術の高度化・総合化と新技術の開発、④品質管理による顧客満足度を最大化する成果の提供、⑤生産性および社員満足度の向上と業務改善の5つを事業方針に位置づけます。特に、5つ目の事業方針である「業務改善」のため、全社において、テレワーク・フレックスなどの柔軟な勤務形態の常態化と、社有情報のデジタル化などDX技術の活用を浸透させ、社員自らが良質な業務成果と付加価値を創造する意識を持つことを目指します。

今年は、皆様にとって、3年間の閉塞感を払拭する充実した飛躍する年となり、ますますのご健康とご多幸を実感できる年となることを祈念いたします。

◆ 会長 富田 英治

「備えなければ憂いあり」

思いもよらぬことに、新調して間もない我が家のC社製プリンタが、昨年末に突然故障しました。エラーコード5C30。C社に問い合わせるとサービスセンターに送って修理が必要との事。プリンタにとっての晴れ舞台である年賀状印刷を前にして、あえなく戦線離脱。妻の怒声を背中に受けながら大みそかの夜にプリンタを買いに走る羽目となりました。反省点は以下の通りです。



- ①そもそも年賀状の印刷をぎりぎりまで先延ばしにしたこと。（毎年の事ですが・・・）
- ②少し前からプリンタの印刷の色調がおかしいという予兆があったにもかかわらず放置したこと。（「予兆」と認識できなかった感度の鈍さと、まあ大丈夫だろうという根拠のない楽観論。）
- ③「思いもよらぬ」ことには備えようがないだろうという傲慢な態度。（「落としたトーストがバターを塗った面を下にして着地する確率は、カーペットの値段に比例する」と言うマーフィーの法則によれば「プリンタは年末に故障する」のは必然と認識するべきでした。）

わが社では、顧客からの指示や依頼を受けた場合には即時対応することを徹底するとともに、実施中の業務については節目・節目で顧客満足度調査を行い、業務品質の向上とトラブルの未然防止に努めてまいりました。地味な取り組みですが、最近その成果に確かな手ごたえを感じています。

なのに・・・私生活ではこの体たらく。恥じ入るばかりです。

この反省に立って、今年心を入れ替えて緩みきった私生活を改善するとともに、業務においても根拠のない思い込みを極力排して、注意深く予兆を検知し、さらなる業務の質の向上に努めてゆく所存です。

本年もどうぞよろしくお祈りいたします。

「森のくまさん」

歌の話ではありません。これ、お米の名前です。

日本酒は、通常、酒米で造ります。前回紹介したように、お酒を造る際には食用の場合よりたくさん研ぐので、元々粒の大きい酒米の方が適しているということのようです。一方で、食用米で造ることも、そうめずらしくはありません。コシヒカリやあきたこまちで造ったお酒も、よく目にします。

酒米というと、「五百万石」「山田錦」「雄町」といった名前が挙げられます。食用米で言う「魚沼産コシヒカリ」にあたるのが、「播州山田錦」、最高峰といったイメージでしょうか。それに次ぐのが「備前雄町」。コシヒカリと同じように、今では日本全国で山田錦が作られています、その中でも播州産山田錦のブランド力は健在のようです。全国各地の酒蔵が播州山田錦でお酒を造っています。それから、漫画「夏子の酒」に登場した幻の酒米「龍錦」、これは架空のもので、そのモデルは「亀の尾」というお米で、酒米としても食用米としても評判が良かったようです。なぜ、幻かということ、それはネット情報に譲ることとします。

食用米でもそうですが、最近では、各県の農業試験場が新しい酒米の開発を競っているように見えます。山形県の「出羽燦々」、新潟県の「越淡麗」、石川県の「石川門」など、各県内に限らず、県外にも少しずつ浸透しているものもあるように見えます。

タイトルの「森のくまさん」は、熊本県産の食用米です。なぜか、県外の酒蔵のものしか私は知らないのですが、受け戦狙いで買ったところ、おいしかったので時々買っています。

と、言いつつ、私もお米によるお酒の味の違いははっきりとはわかりません。何となくの傾向があるように思うのですが。ただ、お酒を呑む時に、お米にも目を向けるとちょっと楽しいかなと思っています。



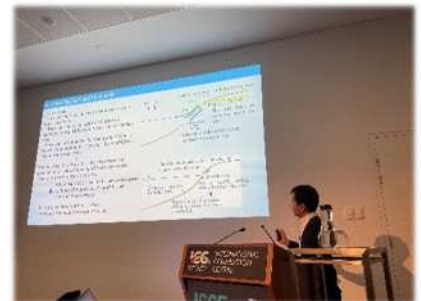
常務取締役
片山 昭



論文発表「海岸工学国際会議 (ICCE : International Conference on Coastal Engineering)」

◆ 防災系事業部 調査解析部 片野 明良

ICCE は、米国土木学会 (ASCE) の海岸・海洋・港湾・河川研究所 (COPRI) の海岸工学研究会議 (CERC) の主催で、2年に一度開催される海岸工学の最高峰の会議です。2022年は、オーストラリアのシドニー国際会議場で6日間に亘って開催されました。私は、「FIELD STUDY FOR WIND-BLOWN SAND ON THE SWASH ZONE」と題して、飛砂対策を検討するための重要な知見を発表してきました。海岸工学における世界の研究者による発表を通して、多様な気象・海象条件、問題意識、問題に対する取り組み方法があることを学ぶことができました。会議で得た知見を最大限に活用し、社会インフラ整備に貢献したいと考えております。また、世界の研究者の考えを学ぶことで、大いに刺激を受け、今後の研究活動のモチベーションが向上したことも、私としては大きな収穫であったと思います。最後に、このような機会を頂き、本研究に携わった方、株式会社エコーに感謝の意を表します。



◆ 防災系事業部 海象解析部 アムヌガマ マンガラ クマール

ICCEの目的は、沿岸波浪、沿岸流、沿岸構造、土砂輸送、沿岸形態、養浜、自然災害、沿岸管理など幅広いテーマについて、沿岸関連の学術・技術交流を促進することにあります。私は、「Applicability of atmospheric reanalysis data for the reproduction of typhoon-induced storm surge in Japan」と題し、JRA-55とERA5の再解析データを用いて、日本の台風による高潮を再現することの可能性について発表しました。世界各国から集まった海岸工学の専門家と話をすることができ、とても良い機会でした。テクニカルツアーもいくつか企画されており、私はシドニー港を船で周遊するクルーズツアーに参加しました。オペラハウスやハーバーブリッジなど、シドニーを象徴する美しい建物をみることができ、とても感動しました。また、ソーシャルプログラムも充実しており、様々な方と話をすることができました。今回初めてICCEに参加し、非常に良い経験ができたので次回もぜひ参加したいと思いました。



外部イベント参加

◆ 南部もぐり（ヘルメット潜水）に挑戦！

この業界にいる方々なら一度は目にしたことがありますよね？「ヒロノジンと学ぼう！」というポスターを。（これまで一度も見た事が無いという方は、もしかしたらこの業界の「もぐり」かもしれません。）

この度、「岩手県立種市高等学校」訪問というご縁をいただき、先生や生徒さん達の協力を得て「南部もぐり（ヘルメット潜水）」を体験する事が出来ました。レジャーダイビング（スクーバ）の経験があるためそれなりに自信があったのですが、いざ準備が進むに連れ「これは大変な事になるぞ」と脂汗を掻くはめとなりました。

「南部もぐり」の装具の総重量は70kg以上もあるのです。もちろん一人でセッティング出来る筈もなく、先生・生徒さん達に一から十までお世話になりセッティングは完了したのですが、装具が重くて一人ではまともに歩く事すら出来ず、その場で狼狽えてしまいました。

「南部もぐり」の歴史は、今から約120年も前に遡る事になります。座礁した船を解体・引き上げするために始まったらしいのですが、当時の潜水スタイルがほぼ現代にも引き継がれているとの事。当時と大きく変わった点は、空気を送る装置が手押しポンプからコンプレッサーへ、合図の方法が信号索から水中電話に改良された程度と言えますから驚きです。

種市高等学校の生徒の皆さん、数年後、この業界のどこかでお会いする事を楽しみにしていますね！！

（営業部 東北事務所 所長 小塚 勇治）



◆ 太陽と海とジョガーの祭典！第36回NAHA マラソン

本大会は、毎年12月に沖縄で開催される国内でも最大規模の市民マラソン大会であり、県内ではニュースやテレビ中継が行われるほどです。コースは、沖縄本島南部5市町をまたぐ周回コースで、完走率が例年6～7割程度と主要な大会と比較すると比較的完走が難しい大会です。

このイベントに対し沖縄事務所では、地域交流や健康増進等を目的として、グループ活動費を活用し毎回ランナーを募って参加しているところです。今年の参加者は、高尾、山城、眞喜志、金城、舟山、重村と私の計7名がエントリーしました。そのうち金城、舟山、重村の3名は今回がフルマラソン初参加となります。



第36回NAHA マラソン参加者（スタート前）

大会当日は、前日までの雨が嘘のように爽やかな晴れの中での出走となりました。沿道からは、たくさんの声援のほか飲料水、果物、お菓子以外にも沖縄そばや牛丼などが振舞われ、完走や記録とは違う他の大会にはない楽しみが色々ありました。結果は、エントリーした7名中5名が完走するという大健闘をみせ、完走率も71.4%と今年の大会完走率67.7%（大会参加者11,933名）を上回る成績を残すことができました。さらに大会後は、ランナーのほか応援していただいた社員らと共に親睦会を開催し大いに盛り上がり終えることができました。

本企画は、引き続き来年度も開催していく予定です。社内外を問わず一緒に走る仲間を随時募集していますので、関心のある方は、お気軽にご連絡ください。

（沖縄環境部 川崎 貴之）

社内トピックス

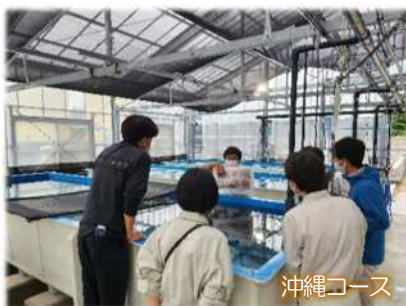
◆ 若手社員研修会 in 沖縄・白島

入社1～2年目の若手社員を対象に、社内で開催している様々な活動の知識を習得することを目的として、沖縄（11月25日）及び白島（12月8日）にて現場研修会を開催しました。

沖縄コースでは、那覇港周辺視察や遊覧船での海底観察、生物分析センターの見学等を行い、白島コースでは、白島国家石油備蓄基地や白島展示館の見学、株式会社白海の浚渫船（アポロ18号）の見学等を行いました。また、研修後にはそれぞれの事務所にて懇親会を行いました。

参加した若手社員からは、「実際の現場を見て説明を聞くことで、業務への理解がより深まった」「今まで内業がメインで現場に出る機会がなかったので、新鮮さもあり非常に貴重な経験になった」「普段交流の少ない地方事務所の社員や同期と親睦を深めることができた」といった声を聞くことができました。

来年度以降も、若手社員にとって実りある研修会となるよう工夫を重ねて実施してまいります。



沖縄コース



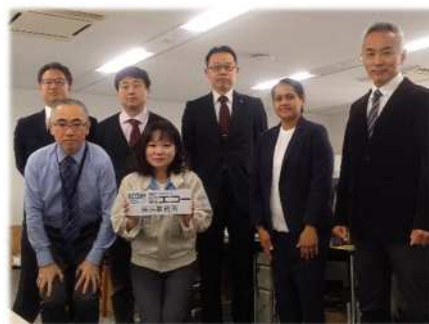
白島コース

◆ 横浜事務所移転（拡張）

この度、弊社の地方拠点化を推進・強化するため、横浜事務所を移転いたしました。

現在、水理解析部・海象解析部・技術研究所・営業部のメンバーが常駐しており、今後、新たな技術部門の増員を行い、サテライト利用の人員を含め、事務所のさらなる拡充、地域への展開を図る予定でございます。

引き続き、発注者の皆様への迅速なサービスのご提供を心掛けて参りますので、今後ともご愛顧の程、宜しくお願ひ申し上げます。



※移転のお知らせ※（令和4年11月24日付）

〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸2-10-36 KDX横浜西口ビル9F

TEL：045-317-3571 FAX：045-316-6805

発表論文紹介

1. Proceedings of ICCE 2022 [2022.12]

Applicability of atmospheric reanalysis data for the reproduction of typhoon-induced storm surge in Japan	Mangala Amunugama, Nobuyuki Ono, Katsuyuki Suzuyama
Filed study for wind-blown sand on the SWASH zone estimated from beach topographic changes	Akiyoshi Katano

2. Proceedings of ISGSR 2022 [2022.12]

Applicability of ROM to Seismic Response Analysis of Caisson-Type Seismically Strengthened Quay Walls against Level2 Ground Motion	Naoki Sumioka
--	---------------

※執筆者欄は共著であっても当社役職員のみを記載



<https://www.ecoh.co.jp>

編集・発行 経営企画部



本社／〒110-0014 東京都台東区北上野2-6-4 上野竹内ビル

TEL：03-5828-2181 FAX：03-5828-2175

事務所／北海道・青森・岩手・秋田・東北・北陸・富山・茨城・東京・埼玉・横浜・中部・静岡・近畿・神戸
中国・鳥取・島根・四国・高知・九州・福岡・大分・鹿児島・沖縄・ソウル・マダガスカル